



SMILE ASIA in Cambodia

Quality of Life and Happiness for Women and Children

～ 2018年度の活動レポート ～

2018年度のSMILEプロジェクトは、7月29日に実施されたカンボジア国民議会選挙の影響を大きく受けました。投票日までのほぼ一か月にわたる選挙期間中、複数名が集ういかなる会合も開催禁止とされたため、例年に比べて識字クラスの開講が大幅に遅れましたが、現地スタッフと村の協力者の皆さんの献身的な努力により、年度内に無事SMILEの全ての活動を実施することが出来ました。学習者の皆さんも集中して良く頑張りました。

プロジェクトサイト

2018年度、SMILEプロジェクトは首都プノンペンから65kmあまり離れたコンボンスプー州サムロントン郡タンクロッチ地区の4つの村で開講されました。この地区は、ポルポト政権時代に内紛の影響を強く受けた地域のひとつで、教育に携わる人材の不足などに現在も悩まされています。村へのアクセスも非常に悪く、ACCU職員が8月に視察に行った際に



は、数日前に降った雨の影響で訪問を断念した村もありました。



学習者のみなさん

各村15名ずつ、計60名がSMILEで学びました。そのうち、20名は就学経験の全くない「非識字者」で、小学校の3年目までに中退を経験した29名を含む残りの学習者全てが、生活に必要な読み書きが十分に出来ない「準非識字者」です。また、

タンクロッチ地区にはイスラム系の少数民族チャムが多く暮らしており、SMILEにも数名が参加しました。是非この機会に読み書きを学んでみたいと、男性1名も仲間に加わりました。

ファシリテーターの研修

識字クラスで先生役を務めてくれる4名のファシリテーターは、3日間の事前研修(8月)と2日間のフォローアップ研修(11月)を受け、指導計画の立案方法や成人を対象とした識字クラスの運営スキルを磨きました。今年は、4名中3名が男性のファシリテーターでした。中には、州政府が運営するイクイバレンシー教育¹の教員経験者も含まれ、質の高い研修と実際の指導が実現しました。



¹ 政府により学校教育との等価性を認められた学校外教育プログラム。様々な学習者の生活パターンやニーズに応える柔軟性があることから、基礎教育保障のメカニズムとして、東南アジアを中心に近年広がりつつある。

識字環境の整備



今年も村の識字環境を改善するため、65冊程の本をポケット式の棚に収めた「読書コーナー」が各村に設置されました。この読書コーナー、移動式なのがSMILEならではの。識字クラスのある日には学習会場に、お休みの日はファシリテーターや村長の家に、また収穫などで農作業が立て込む時期には作業場に設置され、各々がそれぞれのペースで空いた時間を利用して読書に励みました。貸出も可能で、ファシリテーターが各学習者の読書量の記録もつけて、読み書きの学習の進捗具合を図る材料としています。

クラスの様子

例年、SMILEの識字クラスは8か月にわたり週2日間、一日当たり2時間で進みます。しかし、今年はカンボジア国民議会選挙の影響で開講が大幅に遅れ、学習者のスケジュールに合わせて最大で週10時間が学習に充てられました。皆さん、赤ちゃんを抱っこしながら、横に寝転がせて懸命に学習に励みました。

また、SMILEでは、読み書き計算の学習と同時に、保健衛生についても自然と知識が入ってくるような教材と指導を行っています。今年も、保健センターと連携して、専門家による講義や実践学習の時間を月一回設けました。センター所長の話によると、これまで保健センターの活動に興味を示さなかった村の人々が、SMILEでの学習を通じて保健衛生の重要性に気が付き、生活習慣にも様々な改善が見られたとのこと。センター職員との距離も縮まり、学習者からは質問などの積極的な発言が増えました。



学習の成果

SMILEでは3回の中間テスト結果と最終テスト、出席率を利用して、修了時の学習評価を行っています。今年は60名の学習者中52名が

「合格」と判断されました。希望者にはカンボジア教育省の発行する認定証が授与され、成績に応じて小学校3年生から初等教育修了と同等の識字能力を習得したことが認められます。

また、残念ながら読み書き計算のテストでは合格を得られなかった学習者も含め、すべての学習者に生活習慣の改善が見られました。これまで、タンクロッチ地区では自宅での出産が普通でしたが、出産時の様々なリスクについて学んだ2名の妊婦さんは、衛生環境の整った保健センターでの出産を選び、また出生登録と健康カードへの記録、予防接種のサービスを受けました。

【学習者に見られた変化】

- 子どもが昼寝をする際に蚊帳を使用するようになった
- 雨水をそのまま飲料水とせず、沸騰させて使用するようになった
- 排泄後や食前に手洗いを徹底するようになった
- 信仰療法に頼らず、必要な時に適切な医療サービスを自ら求めるようになった
- 産間調節を取り入れるようになった



学習者の子どもたち

現場のみなさんの声

長引く戦争や村に学校がなかったせいで、教育を受ける機会がありませんでした。受講前は、家庭で子供の世話をするのに読み書きは必要ないと思い、正直あまり関心がなかったのですが、実際にクラスが始まってからは、とても興味を持つようになりました。というのも、SMILE で学ぶことは単なる読み書きだけでなく、家事や子供の教育、夫の仕事、さらに子供の健康のケアに役立つことが分かったからです。今では大分読み書きができるようになり、3年生の子どもの勉強の面倒をみています。時間があれば、クラスで学んだことを実際に生かすようなこともしています。例えば、自宅の庭で計画的に野菜を栽培することで出費や夫の負担を減らしたりしています。

ネム・ティエンさん 42歳（学習者、1児の母）



私は5人兄弟・姉妹の長女として育ちました。父は軍人で家を空けることが多く、母は家族を養うためにあちこちを転々としていたため、学校での勉強にもついていけず2年であきらめざるを得ませんでした。もちろん、ろくに読み書きも出来ませんでした。その後、15歳で結婚して6人の子を設け、今は子育てをしながらマンゴフルーツを包装したり、コメ作りの手伝いをしたりしています。SMILE クラスに参加するようになり、アルファベットを思い出し、読み書きができるようになり、子供達にも教えられ、又健康にも気を遣うようになりました。識字教育のおかげで、知識も増え、家族の平和ももたらされたことに感謝いたします。

ティ・チャーニーさん 22歳（学習者、6児の母）

SMILE クラスに通う以前は、読み書き計算ができないせいで困ることが多くありました。例えば、村で何らかのセレモニーがあったときに皿洗いの手伝いをしたり、農家の繁忙期には田植えや収穫の手伝いをしたりするのですが、賃金を支払われてもそれが十分なのかどうか判断が出来ずにいました。今は、何日働いたかの記録を付け、一日当たり幾ら支払われたのかを計算することも出来ます。騙されることもなくなり、借金も計算できて徐々に減らせるようになりました。読み書き計算を学ぶ機会に恵まれて、とても幸せです。

ハン・イエットさん 45歳（学習者、4児の母）



また、今回は村の学習者以外の方々からもメッセージを頂きましたので、一部ご紹介します。

村で SMILE が開講されたおかげで、私たちにも嬉しいことが沢山ありました。クラスではディスカッションや歌、読み聞かせなどもあり、テキストを持っていなくても健康と衛生に関する情報を得ることが出来るので、時間があるとクラスの様子をのぞき、有益な情報は近所の人たちにも伝えるようにしました。今年は人数の関係で正式な学習者としては受講できませんでしたが、来年も引き続き SMILE を開講して頂き、学習者として参加したいです。

トゥクラック村とチャムカースレン村の住民より

※チャムカースレン村は 2019 年度の SMILE 開講が決定しています。

読み書きの力で女性に笑顔を！

カンボジアの SMILE プロジェクトは個人と企業の皆さまからの寄付によって支えられています。アジア太平洋の女性を応援するためのご支援をお願いします。

郵便振替口座： 00120-7-365298

口座名義： ACCU アジアの女性識字振興募金

※ACCU は公益財団法人ですので、寄付金控除の対象となります。

